



国際評価基準審議会 (IVSC) の評議員会報告

IVSC評議員

せ き ね あ い こ
関根 愛子

1 はじめに

国際評価基準審議会 (International Valuation Standards Council : IVSC) は、毎年秋に年次総会を行うが、2021年は10月28日(木)にウェブ会議で実施された。それに先立ち評議員会 (Board of Trustees) が実施されている。そこで、2021年10月の年次総会を機会に、2020年10月の総会で評議員に就任して以降行われた評議員会でどのような議論が行われているか、その概要を報告する。

評議員会は基本的に年3回開催され、この1年間は、以下のスケジュールで実施された。

2021年2月23日(火)、24日(水)

2021年6月15日(火)、16日(水)

2021年10月27日(水)、28日(木)

スケジュールとしては、対面で行うことが計画されていたものの、コロナ禍の環境下、全てウェブ会議で行われた。

各評議員会での主な議題は以下のとおりである。

1. 新規加入メンバーの承認
2. 各基準理事会等からの報告
3. ステークホルダーとの関係構築

4. 評議員、理事等の承認
5. 財務関係
6. オフィスに関する検討

2 新規加入メンバーの承認

会員委員会 (Membership Committee) から評議員会に1年間で以下の22団体の新規加入の推薦があり、検討の結果それらの加入が承認された。その内訳は次のとおりである。

- (a) 評価専門職業組織メンバー (Valuation Professional Organization : VPO、すなわち、各国の資産評価に関する職業団体組織) : 3 団体
- (b) アソシエートVPOメンバー (Associate VPO Member : VPOとなるためのメンバー要件を満たしていないが、将来、VPOとなることを目指している資産評価に関する職業団体組織) : 1 団体
- (c) 機関メンバー (Institutional Member : 政府機関や規制当局などの非営利組織) : 8 団体
- (d) 法人メンバー (Corporate Member : 評価を行う企業又は評価に関心のある企業) : 6 団体
- (e) アカデミックメンバー (Academic

Member: 大学や研究機関など): 4
団体

この1年間は、コロナ禍ではあるものの、積極的に誘致活動を行っており、機関メンバーを中心に加入メンバーが増加している。

3 各基準理事会等からの報告

IVSCには、各専門分野に特化した3つの基準理事会(事業評価(Business Valuation Board: BVB)、有形資産(Tangible Assets Boards: TAB)、金融商品(Financial Instruments Board: FIB))が設置され、各理事会の作成したIVS案を承認する基準レビュー理事会(Standards Review Board: SRB)がある。また、会員との協力関係の強化とIVSの認知度向上を図る会員及び基準認識理事会(Membership and Standards Recognition Board: MSRB)、VPOを構成員として各国実務に関する助言を取り入れるアドバイザリー・フォーラム・ワーキンググループ(Advisory Forum Working Group)があり、さらにヨーロッパ理事会(Europe Board)も設置されており、これらの組織が相互に連携しながら目的に向けた取組を行っている。

これらの理事会等は、その議長が毎回評議員会に活動状況の報告を行っており、評議員会は各理事会等の報告を受けて今後の戦略等を議論している。ここでは、各理事会等の作成したIVS案を承認するSRBについて、議長のMark Zyla氏の活動を中心に報告する。

SRBは、2022年1月31日付けのIVSの発行、金融商品(IVS500)の改訂、市場のニーズにこたえ、潜在的な基準設定課題等を議論するために様々なパースペクティブ・ペーパー(Perspec-

tives Paper)¹の発行に力を入れてきたことが報告された。具体的には、以下のようなPerspectives Paperが発行されている。

- *Is Goodwill a wasting Asset?*
- *Information Value of the Current Impairment Test: Leading or Lagging Indicator?*
- *Opportunities for Enhancing the Goodwill Impairment Framework*
- *Defining and Estimating Social Value'*
- *Challenges to Market Value*
- *ESG and Business Valuation*
- *IBOR Reform A Valuation Guide*
- *A Framework to Assess ESG Value Creation*
- *The Art of Valuing Personal Property*
- *Internally Generated Intangibles*

また、基準設定プロセスに資するため、様々なワーキンググループを設定してきており、現在は以下のワーキンググループが存在する。

- ① AVM², Data and Modelling
- ② ESG
- ③ IVS 101 to IVS 105
- ④ Social Value
- ⑤ TAB ESG
- ⑥ IFRS 16
- ⑦ Market Value
- ⑧ IVS 300 Income Approach

これらについては、BVBの理事である岩田宜子氏による「国際評価基準審議会(IVSC)の基準理事会(Standards Boards)の最近の動向—Business Valuation Boardでの議論を中心に—」(88頁)も参照されたい。

4 ステークホルダーとの関係構築

IVSの認知度を高めていくためには、規制当局をはじめとした様々な関係者との関係強化が重要であり、その状況のアップデートが報告されるとともに今後の対応が議論されている。

5 評議員、理事等の承認

評議員会は指名委員会の議論を受け、様々な候補を検討しているが、この1年間は以下の2名が新規に評議員に推薦され、10月の年次総会で承認された。

Linda de Beer氏: 南アフリカの会計士であり、現在は南アフリカの上場企業の社外取締役を務めるとともに、公益監視委員会(Public Interest Oversight Board)の議長を務めている。

Jacques Potdevin氏: フランスの会計士であり、世界70か国に展開する国際ネットワークをもつ会計事務所JPA Internationalの会長兼CEO。IFACの理事や指名委員会の委員等も歴任した。

なお、これまで評議員会の副議長を務めていたEthiopia Tafara氏が任期満了で退任となったため、新たな副議長として、シンガポールのLim Hwee Hua氏が選出された。以上の結果、評議員は14名となっている。

また、IVSCでは各理事会のメンバーに地域的偏りがあり、北アメリカやオーストラリア、英国のメンバーが多く、評議員会のレベルでは、アフリカ、中南米からも代表が出てきているが、アフリカや中南米のメンバーをどのように増員させていくかという議論がなされている。

6 財務関係

評議員会では毎回、財務状況の確認が行われ、6月の会議では監査委員会の検討後の財務諸表を承認し、監査人であるCroweからの監査報告も行われている。

IVSCは主に寄付と会費から収入を得ているが、まだまだ規模も小さく財務基盤も強化が必要とされている。現在はコロナ禍で出張もままならないため、コストが低く済んでいるものの、IVSの認知を得ていく活動をしていくための資金計画を議論している。

7 オフィスに関する検討

IVSCの活動の拠点は、現在、英国にあるが、シンガポール政府等と連携し、2022年にアジアオフィスを設立することを検討中である。また、登記上、IVSCは米国にあり、その見直しも議論されている。

8 おわりに

以上、評議員会での主な議論を紹介したが、その他、様々な議論を行っている。また、ウェブ会議で行えることを活用し、

定例の評議員会に加え、最近の情勢を考慮したESGについての議論や資金計画を含む戦略の議論を行う等、適宜追加の会議も行われている。さらに、評議員はIVSCの役員として適宜、委員会を組成して議論を行っている。

次回以降の会議は、可能な限り対面で行いたいとしており、2022年2月15日、16日にワシントンで、6月20日、21日にロンドンで、9月14日から16日に米国のフォートローダーデール(フロリダ)で同月11日から13日に行われるAmerican Society of Appraisers International Conferenceに引き続き、総会と合わせて行う予定であるが、コロナ禍の状況により引き続きリモートでの会議となるかもしれない。

<注>

- 1 パースペクティブ・ペーパーは、国際評価基準(IVS)に関連する評価のトピックや、新たな課題についての議論を開始し促進することや、基準設定者の視点からトピックに関する情報を提供することなどの目的でIVSCから随時発行される文書と位置付けられている(IVSやその公開草案ではない。)
- 2 Automated Valuation Models: AVM